



《金沢龍馬會 新年会》

日時：1月23日（水）18：00

場所：金沢ニューグランドホテル

金沢龍馬會新年会が金沢市尾山神社の神門が真ん前に見える中華レストラン「金沢ニューグランドホテル」で開催されました。

参加者： 小屋/不破/蛭子/宇賀/中田俊/佐藤/大坪/吉田/紐野/高崎/富来/油谷/勝田/中城/寺元/山崎/朝日/周藤/北川/西三/小幡/中浦/折戸/中田文/谷/池田/小峰/永崎/東寿/那波/上田/高島/新木/堀野/松下さんと計35名で大盛況でした。

来賓挨拶に引き続き池田義則さんによる「龍馬と農業とわたし」講演がありました。

龍馬は直接農業を行った記録が無いので維新以降、龍馬の師匠である勝海舟が主導した旧幕臣たちによる静岡の茶畑のお話や池田さんが定年後、羽咋の実家に帰り保有している農地で米を生産している事。

ご本人曰く玄人でないため昨年は5俵で26俵、穫れたこと（多い人で10俵、標準で8俵とのこと）、某有名人にご当地名産の枯露柿をお歳暮で送っていることなどだ・・・。

農業は自然からの恵みだが、自然から困難ももたらされ、自然との共生を学ぶ事などが語られました。

その後、待望の親睦会に入り中華料理と酒を堪能、大いに語り合いました。

新人を中心とした3名から発言がありましたが、いずれもしっかりした内容でした。そして本日の目玉であるビンゴ大会を行いました。

皆さまが持参された景品数は参加者数より多く、いずれも立派なものでした。

皆さまのご協力で今年一年もよりよい龍馬会を開催することができそうです。

【会員のつぶやき】 “蛭子さんと龍馬を語る”

小峰 哲



私が龍馬会に入るきっかけは、お客様に連れて行って頂いた居酒屋「お龍」で蛭子会長にお会いした事です。

それまでは坂本龍馬や幕末の志士について歴史の授業で習った程度しか知りませんでした。

初めて「お龍」でお会いした蛭子会長の人柄に触れ、龍馬のお話しを伺うにだんだんと引き込まれ、これも何かのご縁ではと感じ、生まれ育ちも関係の無い金沢の地で龍馬会に入れて頂くこととなりました。

初めは何か金沢でつながりが出来れば程度にし



か考えておりませんでした。龍馬会の皆様とお話する中で日本を再認識させて頂き、更に人間関係が構築できる龍馬会に参加できることを大変嬉しく感じております。

人間として更に成長できるよう精進したいと思っております。皆様宜しく願致します。

まるわかり「龍馬と志士たち」①

志士たちが活躍した長崎とは

残念ながら龍馬は金沢に来ていない。龍馬が活躍し、足跡を残した主な地域は、土佐、江戸、京都、長崎、山口、鹿児島そして越前である。江戸は修行、京都は政治、長崎は事業である。

長崎はポルトガル人が理想的な貿易港を探し続け、ようやくたどり着き建設した港町である。

当初キリシタンと貿易商人が暮らす街であった。藩主である大村純忠は長崎をイエズス会に寄進してしまった。それを知り激怒した秀吉は長崎を直轄地にした。

キリシタン嫌いの秀吉は関西方面で司祭と信者をとらえ長崎まで歩かせ 26 人を公開処刑し、長崎在住キリシタンへの見せしめとした。

それでも貿易から得られるメリットを捨てることのできなかった。

徳川の時代となり宗教と貿易の分離を実行し、出島を作り街に居住していたポルトガル人を収容してしまった。

しかし島原の乱が起こりポルトガル人を国外追放し、宗教的に穏健なオランダ人を平戸から長崎出島に引っ越しさせた。

その時代も中国人商人は依然として街に住んでいた。その後唐人屋敷を作り彼らも収容してしまっ

た。それでも江戸時代を通じ、オランダ貿易・中国貿易は継続し、商品のみならず科学、芸術、思想が長崎を通じ日本に入ってきた。

長崎には、江戸から遣わされていた奉行がおり、各種情報を得るために西南各藩の蔵屋敷が存在した。明治維新を先導した薩摩/長州/鍋島なども含まれる。

幕末に至り安政五か国条約（米/蘭/露/英/仏）を締結し、まず函館/横浜/長崎を開港したが伝統ある長崎には依然として全国の雄才が勉学のためはせ参じた。

そこには多くの志士が含まれる。加賀藩の若き秀才も集団で送られてきた（詳細は後日）。

龍馬が最初長崎に現れるのは、元治元年(1864)勝海舟のお供で、九州を横断し島原に着き 2 月

23 日長崎に到着した。

その後、日本初の商社と言われる亀山社中を作り、薩摩と長州の仲立ちをした。

土佐藩から派遣された岩崎弥太郎が主導する土佐商会の協力を仰いで海援隊に改組・運営する。

そこで多くの商売を行いまた複数の事件が起きるが龍馬は幕府を含めた多くの藩の人材と交流を行う。

本編では、長崎と関係ある各藩の人物を取り上げ直接・間接的に龍馬とのかかわりを述べていきたい。



江戸時代の長崎港、中央に「出島」、
左に「新地倉」（現中華街）、「唐人屋敷」が描かれる
「シーボルト著『NIPPON』図版より（福岡県立図書館より）」
「続く」（記：吉田信夫）

【編集後記】

皆さま、今年も宜しくお願いします。心の中に常に“龍馬の志し”を持ち張り切ってまいりましょう。会報も第 19 号が完成、漸く皆さまにお届けすることが出来ました。

***** 事務局 *****

金沢龍馬会

会 長：蛭子政喜

事務局長：吉田信夫

080-5600-1113

jitianxinfu@hotmail.com

会報担当：中田俊郎 090-7806-2269

n-toshio@muji.biglobe.ne.jp

金沢龍馬会 公式ホームページ

<http://kanazawa-ryomakai.com/>

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa.ryomakai?sk=wall&filter=2>

